

令和2年度 第2回SD研修会報告（FD・SD学園合同）

内 容	SDGsに基づく教育実践
日 時	令和2年9月16日（水）14:00～16:00
場 所	メイン：宮崎学園中学校・高等学校・多目的ホール サブ：宮崎国際大学他
進 行	本部 東 慶明係長 高校教諭 伊東 望先生
参加者	宮崎学園教職員
議 事 内 容	
<p>今回の令和2年度第7回宮崎学園FD・SD合同研修会は、コロナウイルス感染防止対策としてZOOMを利用した双方向オンライン配信方式により、各学校・各教室等に分散して実施された。</p> <p>本日の研修は、本学園が令和2年度より「SDGs」の趣旨に賛同し、学園全体で目標を掲げ、新たな活動に取り組むために、外部講師の講演ならびに中高校教員との対話を行い、「SDGs」を通じた教育実践についての学びを深めることを目的としている。</p> <p>【研修内容（タイムテーブル）】</p> <p>1. 理事長あいさつ</p> <p>最初に山下理事長より、コロナ禍の中で宮崎学園の教職員が力を合わせて様々な対応をしてもらったことに対するお礼が述べられた後、宮崎学園FD・SD合同研修会のあゆみと本学園の建学の精神である「礼節・勤労」について話された。</p> <p>2. 講演「SDGsに基づく教育実践」講師：福岡教育大学 石丸 哲史教授（※別添資料を参照）</p> <p>SDGsは、持続不可能な現実の理解（今どうなのかを考える？）から始まり、持続可能性を追求（どうすればいいかを考える？）し、ゴール（何をどこまでやるかを考える？）を設けて持続可能な社会を実現していくことを目指すことである。</p> <p>SDGsに向かう教育＝ESD（持続可能な開発のための教育）であり、SDGs自体について学んだり、SDGsの17の目標全てを意識して取組を行うことも考えられ、学校や地域特有の課題に特化したESDの取組について、SDGsの特にどの目標につながり、どのように貢献できるのかという観点からSDGsとの関わりを考え、地域における特定の目標の達成に貢献しようとすることも大変意義のある取組である。学校や地域が連携・協働してESDに取り組むことで、総体としてSDGsの17の目標の達成に貢献することにつながる。</p> <p>ESDは、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、各人が自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動である。</p> <p>その他に講演では、「学習指導要領の前文・総則・総説」「カリキュラム編成における逆引き設計」「持続可能な社会づくりの課題を見いだすための視点」「持続可能な社会づくりの課題解決のために身に付けたい力」「ESD実践のための10のポイント」について詳細な説明が行われた。</p> <p>最後に、今だけではない、ここだけではない、自分だけではない。時間・空間・人間を越えた教育がESDであることを強調されて講演を終了した。</p> <p>3. 意見交換・質疑応答</p> <p>外部講師の石丸教授と宮崎学園中学校・高等学校の代表教員との間で、SDGsへの取り組み方等についての質疑応答が行われた。</p>	